

非常時における放射性物質に対する防護

原子力発電所や放射性物質を扱う施設などの事故により、放射性物質が風に乗って飛んで来ることがあります。

その際、長袖の服を着たりマスクをしたりすることにより、体に付いたり吸い込んだりすることを防ぐことができます。屋内へ入り、ドアや窓を閉めたりエアコン(外気導入型)や換気扇の使用を控えたりすることも大切です。なお、放射性物質は、顔や手に付いても洗い流すことができます。

その後、時間がたてば放射性物質は地面に落ちるなどして、空気中に含まれる量が少なくなっていきます。そうすれば、マスクをしなくてもよくなります。



空気を直接吸い込まない
(マスクやハンカチで口をふさぎます)

摂食制限された飲み物や
食べ物はとらない

退避や避難の考え方

放射性物質を扱う施設で事故が起こり、周辺への影響が心配される時には、市役所、町や村の役場、あるいは県や国から避難などの指示が出されます。

周辺のデマなどに惑わされず、混乱しないようにすることが大切です。

家族や先生の話、テレビやラジオなどで正確な情報を得ること、家族や先生などの指示をよく聞き落ち着いて行動することが大切です。

事故後の状況に応じて、指示の内容も変わってくるので注意が必要です。

| 退避・避難する時の注意点 | | |
|--|---|---|
| <p>正確な 情報を基に 行動する</p> <p>●一斉放送、広報車、ラジオ、防災無線など</p> | <p>退 避</p> <p>●ドアや窓を閉める</p> <p>●エアコン(外気導入型)や換気扇の使用を控える</p> <p>●食器に蓋をしたりラップを掛けたりする</p> <p>●木造家屋より遮蔽効果が高いコンクリートの建物への退避指示が行われることもある</p> | <p>避 難</p> <p>●ガスや電気を消す</p> <p>●戸締りをしっかりする</p> <p>●避難場所へは徒歩で</p> <p>●持ち物は少なく</p> <p>●隣近所にも知らせる</p> |

退避と避難は、どちらも放射性物質から身を守ることであり、「退避」は家や指定された建物の中に入ること、「避難」は家や指定された建物などからも離れて別の場所に移ることです。